

世界食品安全の日

2026年
6月7日



負担から解決策へ 安全な食品をどこにでも



コミュニケーションツールキット

#WorldFoodSafetyDay



世界食品安全の日について

明確で目的が定められた行動の指針となる利用可能な最善の根拠を用いることにより、食品安全を前進させることが可能になります。世界的にみて、食品に由来する疾病(食品由来疾病)は、少なくとも200の疾病を引き起こし、人々の健康、生活、教育、そして経済に影響を及ぼすなど、極めて大きな負担となっています。しかし、その大部分は予防することができます。効果的な解決策を特定し、それらに優先順位を付け、そして適用するための正しい知識を協働して築き上げれば、確実に食品を安全にすることができます。協調した行動が、病原性のある細菌やウイルス、寄生虫、また有害化学物質に汚染された食品の消費を防止する助けになります。

今年の世界食品安全の日には、疾病とそれによる負担、そして残念ながら失われる命に関するデータが、単に負担を受け入れるのではなく、より対象を明確にして費用対効果の高い解決策を取ることへと私達を進める力になることに気づきましょう。最も高いリスクを特定し、根拠に基づく対策を適用することで、どこであっても誰もが安全な食品を手に入れることができます。



© WHO / Loan Tran

データが公開されます！

世界食品安全の日である6月7日の前の週に、WHOが食品由来疾病について推定したデータを公開しますので、注目してください。この推定データは、今後の行動の礎となる、強固で新しい根拠を提供します。



© WHO / Sue Price



© Abu Dhabi Agriculture and Food Safety Authority (ADAFSA)



© FAO



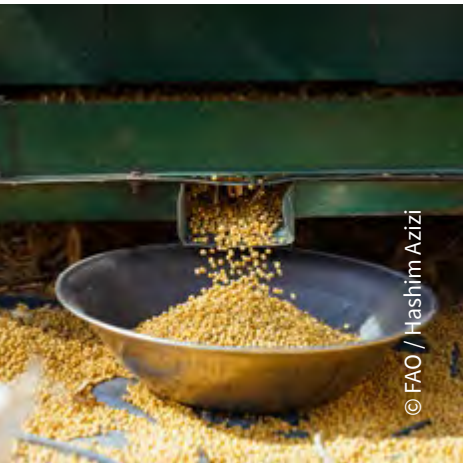
世界食品安全の日のテーマ

負担から解決策へ： 安全な食品をどこにでも

食品由来疾病は、どこにいる誰にでも影響を与える可能性があります。そして、それがもたらす負担の大きさを理解することにより、国の規制当局や食品事業者が的を絞った行動を取ることができるようになります。安全でない食品がもたらす健康への負担に関する信頼できるデータは、根拠に基づく政策、分野横断的な協働、そして情報に基づく消費者の選択の基礎となります。

汚染や疾病を防ぐ方法を考えるための科学的知見や明確な指針は、農家、食品製造事業者から輸送事業者、小売業者、食品衛生監視員、調理従事者、そして消費者といった、食品の生産から消費に至るまでの過程(フードチェーン)に携わる皆さんの役に立つものです。各国政府はデータを費用対効果の高い政策の検討や介入策に活用することができ、食品業界はその取組を改善することができ、個人は根拠に基づき食品を選択し消費できるようになります。今年の世界食品安全の日には、健康に関するデータには力があることを強調したいです。食品のリスクの程度や広がり、そしてどのような影響を持つのかを理解すれば、私達はできるだけ食品を安全にすることができます。

しっかりとしたデータと科学に裏付けられた持続的な取組への約束が、実践的な解決策を通じて食品由来疾病の負担に対処することへの助けになるとともに、あらゆる場所の全ての人々にとって食品が安全であること、そして食品由来疾病の影響を受けた人々に適切な医療が提供されることを確実にします。





食品安全を確実なものにするための第一歩は、誰が最も大きな影響を受けるのか、その人々がどこにいるのか、そしてその人々がなぜ病気になるのかを特定することです。安全でない食品が公衆衛生に与える影響を測り、要因別にその大きさに順位を付けることは、取るべき行動に優先順位を付けるための助けとなります。食品由来疾病による負担に関するデータは、各国のステークホルダーが具体的な対策を開発し、リソース(人的、金銭的といった資源)を配分する助けになります。また、各国のリスク管理者は、国ごとの状況にあわせて最も効果的に機能するであろう国際的な食品安全規格を特定するために、これらの情報を利用することができます。



© WHO / Yoshi Shimizu



© WHO / Mikhail Grigorev

WHOによる食品由来疾病の推定値

2026年にWHOは、食品由来疾病による負担(2000-2021年)に関して、全世界・地域別に加えて初めてとなる国別の、最も包括的な推定値を公表する予定です。これらの推定値は、食品中の危害要因を順位付けすることにより、どこにより大きな負担があるのかを明確に示し、各国政府が消費者保護のためのリスク管理措置とそのための資源配分に優先順位を付ける際の助けとなります。2026年版の報告では、初めて国レベルの推定値が公表されることとなります。このことによって、大きなデータギャップが埋められるとともに、各国における将来の食品由来疾病による負担を軽減するための、国による食品管理システムの強化が後押しされることとなります。また、報告書には、食品由来疾病による経済的な負担に関する推定値も含まれる予定です。

コーデックス・アリメンタリウス

解決策につながる豊富な知見がコーデックス・アリメンタリウスとして蓄積されてきています。このコーデックス・アリメンタリウスは「フード・コード」とも呼ばれ、コーデックス委員会により採択された一連の食品規格、ガイドライン及び実施規範の全体を指します。このコーデックス委員会が採択した食品規格や関連文書が実装されることで、60年以上に渡ってコーデックス委員会が推進してきた目的である「消費者の健康の保護」と「公正な食品貿易の促進」が達成されます。毎年、フード・コードは成長を続けています。新しいデータが利用できるようになった際には、新しい規格が導入され、既存の規格が更新されています。



キーメッセージ

食品由来疾病は防ぐことができます

食品由来疾病に関する信頼できるデータは、政府、食品事業者、そして個人による十分な情報に基づく選択に役立ちます。どこに高いリスクが潜んでいるかを知ることが、費用対効果の高い措置に重点を置くことを可能とし、そして公衆衛生の保護につながります。

食品由来疾病の発生パターンは変化を続けています

予防策につなげるために、症例数や死亡数といった食品由来疾病に関するデータを定期的に収集すべきです。食品由来疾病の疫学は、気候変動、季節性、また介入措置の成功といった要因によって、時間の経過とともに変化していきます。

的を絞った行動が結果をもたらします

信頼できるデータに基づいて明確かつ達成可能な戦略行動が策定されれば、その結果は極めて大きく、影響を与え、そして迅速に現れる可能性があります。

食品由来疾病は経済に影響を与えます

医療費や病気によって失われる時間、生産性の低下などの要素を通じて、食品由来疾病は経済に影響を与えます。安全でない食品は、公衆衛生システムの大きな負担となるとともに、市場を混乱させ、貿易を制限し、今日においては各国に莫大な経済的負担をもたらしています。

リスクの順位付けが行動の指針になります

食品由来ハザード(危害要因)の影響を国レベルで測ることにより、各国は、食品安全リスクを特定し優先順位を付けることができるようになります。そうすることが、資源を効果的に配分し、最も重要な分野への介入を助け、人命を守り資源を節約することにつながります。

分野横断的な協働が食品安全を強化します

単独では、食品安全を達成することができません。公衆衛生、農業、貿易、環境、そして消費者保護の各分野が一緒に取り組まなければなりません。調和のとれた政策や協働が、最も脆弱な人々を含む全ての人々を守り、最大限の効果をもたらします。

科学と影響に関する根拠が意思決定を支え、信頼を構築します

科学的な研究、サーベイランスデータ、そして標準化された評価が、十分な情報に基づく意思決定の基盤です。根拠に基づく方法を取ることは、国の食品管理システムを強化するとともに、公衆の信頼性の向上につながります。

負担のかかり方には偏りがあります

食品由来疾病に関する負担は、集団全体に等しく広がっているものではありません。ある地域社会は他の地域社会に比べてはるかに大きな影響を受けていますし、子供達が最も深刻な健康上の影響を受けることも少なくありません。



事実と統計



© Andra, Romania



© WHO / Sue Price



© WHO / Yoshi Shimizu



© WHO/Sue Price

- 多くの食品由来疾病は、洗浄、皮むき、調理、低温殺菌、食品の安全な取扱、作物栽培に適した水を使うこと、そして効果的な公的管理といった、十分に確立された対策を通じて予防することができます。しかし、これらの対策を行動のために活用し、負担を軽減して疾病を予防するためには、持続的な取組が必要です。
- 様々である食品由来疾病原因からの負担に対する相対的な寄与は地域によって異なりますし、異なる集団には異なるリスクが伴います。“全ての状況に当てはまる万能な”解決策はありません。そのため、特定の年齢層や性別のグループのための、また各国の状況に応じた、的を絞った介入が求められます。
- 食品を介して伝播するハザードの中には、ヒトを直ちに病気にさせるもの(多くの場合に影響が急性のもの)もあれば、心疾患やある種の癌、また精神疾患といった慢性的な健康問題を引き起こすものもあります。
- コーデックス・アリメンタリウスには、238の規格、91のガイドライン、58の実施規範及び食品中の汚染物質や食品添加物に対する最大基準値、食品に含まれる農薬や動物用医薬品の最大残留基準値を網羅する10,000以上の量的な基準が含まれています。これらのフード・コードが実装されれば、食品を安全に保つ助けとなります。
- 気候変動は、変化を続ける食品安全リスクにおける要因の1つです。一部の有害な細菌やウイルス、また毒素は、気候変動によって、食品、土壌や水の中で増殖したり拡散したりしやすくなる可能性があります。



行動への呼びかけ。あなたには何ができるでしょう？



© WHO/Sue Price



© WHO/Sue Price



© WHO/Sue Price



© Abu Dhabi Agriculture and Food Safety Authority (ADAFSA)



© WHO/Sue Price

政府にできること

- 食品安全を継続的な優先課題として位置づけることを確実にし、政策や取組を長期的な計画に組み込むこと。
- 利用可能な、負担に関する推定値やその他のデータを使用して、リスクを順位付けするとともに、予防的行動の優先順位を決めること。また、最も必要とされる分野に資源を配分すること。
- 食品由来疾病のサーベイランスや食品モニタリングを通じてデータ収集を強化し、根拠に基づき効果的なリスク管理方法を方向付けるとともに、進捗状況を把握すること。

食品業界にできること

- 従業員を対象に、最新の食品安全の実践と新たに生じつつあるリスクに関する研修と教育を強化するとともに、コーデックス実施規範も含む適正実施規範のような食品安全プログラムの徹底使用を確実にすること。
- 適用可能な場合には、適正衛生規範(Good Hygiene Practices: GHP)やハザップ(Hazard Analysis and Critical Control Point: HACCP)を活用し、生産から消費に至るまでの過程にあるハザードを同定・管理するとともに食品安全リスクを管理すること。
- 食品安全リスクをモニターし改善状況を見守るために、食品事業者が持っているデータを活用して、根拠に基づく食品安全プログラムを実践すること。

公衆衛生の専門家にできること

- 負担がより大きな、ヒトや地域をよりよく特定するために、診断や臨床管理、また食品由来疾病の管理プログラムを改善して検出力を高めること。
- 各分野を横断して統合的な疾病サーベイランスを促進させるために、多分野のパートナーと協働すること。

消費者にできること

- WHOが作成した「より安全な食品のための5つの鍵」に従い、家庭における安全な食品の取扱いを実践すること。
- 信頼できる情報源から発信される食品のリコール、アウトブレイク及び安全な食品への取組に関する情報が更新されていないかチェックし、根拠に基づき行動すること。
- 安全でない食品について規制当局にどのように通報すべきかを知るとともに、家庭内で疾病を予防するための実践的な対策を行うことによって、リスクの報告と対応を行うこと。



参加しましょう

● 多分野の人々が参加するイベントを主催しましょう

農業、公衆衛生、そして環境分野の専門家と一緒に、国の食品安全に関する状況を改善するための方法について議論しましょう。その際には、日常的に行われるモニタリングやサーベイランスのデータと共に、国内における食品由来疾病の負担や国の食品管理システムに関するデータを指針として使いましょう。



● 食品安全に関する展示会を企画しましょう

安全な食品の取扱や汚染防止を説明する参加型の展示や実演を、学校、大学または地域コミュニティのために企画しましょう。

● ソーシャルメディアキャンペーンをはじめましょう

ハッシュタグ #WorldFoodSafetyDay を使って、安全な食品の取組に関する動画やポスター、ちょっとしたヒントを共有するとともに、人々に行動を促しましょう。



● 食品安全に関するクイズを試してみましょう

食品由来ハザード(または食品由来疾病のリスク)やそれらのリスクを低減するための実践的な解決策に関するクイズをすることで、学生、従業員あるいは市民の関心を引きつけましょう。

● 地域でウォーキングやランニングのイベントを開催しましょう

安全な食品の取扱に関するちょっとしたヒントを共有するための、学習を目的とした休憩場所を設けるなどして、楽しい活動を通じてコミュニティの参加を促しつつも、食品安全への意識を向上させましょう。





コミュニケーションツール



デジタルメディアハブ

ポスター、広告素材、イベントに活用できるその他の資材は全て、6つの国連公用語(アラビア語、中国語、英語、フランス語、ロシア語及びスペイン語)で利用することができます。

ダウンロードはこちら



世界食品安全の日 ウェブサイト

今年の世界食品安全の日に関するニュースやイベント、その他情報や資材に関するリンクはこちらから。



著作権について (ロゴマークの使用許諾について)

世界食品安全の日の共通ロゴマークは、変更を加えない限り、全ての世界食品安全の日の活動で使用することができます。こちらからご自由にダウンロードしてください。

ただし、FAOとWHOのロゴマークは、いかなる理由があっても、事前に両機関に使用申請する必要があります。詳細についてはFAOとWHOのウェブサイトをご参照ください。



© WHO/Fanjan Combrink



© WHO/Genna Print



© WHO/Ploy Phutpheng



© WHO/Tytaar

世界食品安全の日について

毎年6月7日には、国連食糧農業機関(FAO)と世界保健機関(WHO)が各国の規制当局、市民社会、アカデミア、そして世界各地からの参加者と共に、世界食品安全の日を記念します。世界食品安全の日は、食品安全が共有された権利であり責任であることを強調するとともに、共に行動するための強力な機会となります。

ツールキットについて

このツールキットは、2026年6月7日(その前後)に第8回を迎える世界食品安全の日に、世界各地にいる食品安全を推進しようとする人々が参加するのを助ける目的で、FAOとWHOにより開発されました。

あなたのイベントを私達に教えてください

世界食品安全の日のためにあなたが何を計画しているか、是非教えてください。世界食品安全の日のウェブサイトに掲載できるように、実施した活動は記録として残してください。あなたのイベントの詳細、写真や動画へのリンクを共有してください。

本文書は、国際連合食糧農業機関(FAO)及び世界保健機関(WHO)により出版された 7 June 2026 | World Food Safety Day Communication Toolkitを消費者庁の研究*として日本語に翻訳したものである。原文と翻訳に相違がある場合は原文が優先される。*令和8年度 食品衛生基準行政推進調査事業費補助金「食品衛生基準行政における国際整合性の確保と食品分野の国際動向に関する研究」(研究代表者：渡邊敬浩)

連絡先

FAO

world-food-safety-day@fao.org

WHO

world-food-safety-day@who.int

#WorldFoodSafetyDay

tag @FAOWHOCodex on X

参加してください：

WHO栄養・食品システム実践コミュニティ
(食品安全グループ)

<https://www.whofoodsystems.org/>